

【福州市友好都市提携 45 周年記念訪問団報告書】

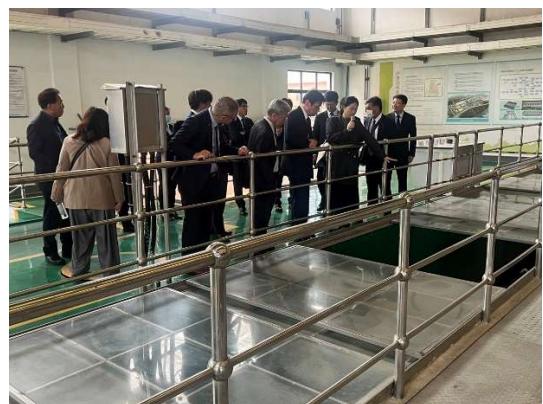
長崎市議会議員 木森 俊也

2025年11月10日から14日までの5日間、「福州市友好都市提携45周年記念公式訪問団」の一員として参加させていただきました。

今回は前回10年前の友好都市提携35周年記念訪問以来の中国訪問でありました。長崎空港を出発し、上海経由での福州市入り。福州の空港（長楽空港）から市内までの移動の間に感じたことは、前回とは違い高層マンションが建ち並び街の雰囲気も違ったような感じがしました。

2日目、訪問団一行は、午前中に福州市の海洋・漁業技術センターを訪問し、長崎市と福州市海洋与漁業局との間で、長崎市と福州市は相互訪問を通じて、友好往来を深めている。今後も必要な時期に相互訪問団を派遣し、相手の漁業を視察し、漁業資源と環境保全、漁業科学技術、漁業貿易などについて交流をふかめる。ことなどを主な内容とする「長崎市と福州市の水産交流協議書」の調印式が行われました。その後、国潮博物館へ移動し、福州鑑賞金魚の養殖場を視察しました。

午後からは、1991年から水道技術交流が始まり、この間13回、延べ44名の市職員が福州市を訪れ、福州市からも11回、延べ40名が長崎市を訪問し、意見交換を行うことで水道技術の向上を図ってきました。そのような中、私たちは福州市にある前回も視察した洋理下水処理場、その後、国有企業が管理している飛鳳山浄水場の視察を行いました。特に浄水場では安全管理に万全の態勢を取っていること、また、下水処理場では長崎市と異なる浄化方法との説明を受けました。



3日目は午前中に豊かな歴史とユニークな建築様式を持つエリアの煙台山歴史的景観地区を訪れ、その後、中国と西洋の建築が融合した福州文化の特徴と典型的な福建商人文化が融合した伝統的な地区、上下杭歴史文化町の視察を行いました。

午後から文人などが多く住んでいた所と庶民が住んでいた下町で、明・清時代から現在まで続く町並みである三坊七巷を視察しました。夜には呉賢徳福州市長表敬訪問のため福州市が所有する于山堂に移動し、福州市長をはじめとする10名の幹部の方に出迎えていただきました。



4日目は午前中に福清市を訪れ、長崎市とも関係の深い1200年の歴史がある寺院「黄檗山万福寺」を視察しました。

午後からは、上海市に移動し、上海国際貿易中心において、上海の水産事業者である上海一網鮮の代表者から現状とこれまでの経緯を説明いただいたのち、上海での最大の繁華街である「南京路」、上海の夜景を見学し視察全日程を終了しました。



このように滞在5日間の中で、改めて中国の広さや、10年の月日の中での都市の発展に凄さを感じました。また、各地を視察する中で、歴史と文化の深さを強く感じたことなど、他国を訪問し目で見て、肌で感じることの大切さを今回の中国訪問でも痛感しました。一つ残念なことは、長崎市と中国・福州市はこれまでの長い期間、人的交流・文化的交流を友好的に行ってきましたが、政治的な問題で交流が途絶えないかとの不安も感じていました。この問題を両国が乗り越え一層の交流が深まるることを今後期待したいと思います。また、鮮魚の再開に向けては、上海市の水産事業者も期待していることから、早期の開会を期待し、長崎市と議会が一体となり取り組む必要性を感じました。

最後に福州市の外事弁（国際交流課）の職員が空港での出迎えから見送りまで全てに同行していただいた心遣いに感謝しかありません。このような機会を与えていただいたことに感謝し、今後の議員活動にも活かしていきたいと思います。